

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社食品丹波第3工場	階数	地上2F
建設地	京都府船井郡京丹波町富田野口8	構造	S造
用途地域	区域区分非設定	平均居住人員	25 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年6月 予定	評価の実施日	2010年11月6日
敷地面積	20,614 m ²	作成者	藤井健太郎
建築面積	11,449 m ²	確認日	
延床面積	12,141 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 92%

③上記+②以外のオンサイト手法 92%

④上記+オフサイト手法 92%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 京丹波町国道9号線と国道27号線蒲生交差点より国道27号線を約1.5km程和知側に入った、国道と須知川に面した場所に建つ食品工場。食品工場の基本的な性能を満足させると同時に変化に対応できる空間及び構造とした。又建物地下ビット空間の一部を雨水流出抑制貯留槽として利用した。国道27号線に面する延長145mの壁面に対し、道路側に5.0mの斜面緑地を設け(27号線が下り勾配)、高木とG・C・Pを全面に密植し景観への配慮を行った。		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 工場はその性格上無窓とし、虫の進入防止、カビ防止材等により製品の品質確保。 事務所は透明性と吸音材(天井、床)による両立。 食堂、休憩室ゾーンは、外部景観の取込みと昼光の確保	Q2 サービス性能 設備配管、ダクト等の必要スペース、バスダクトの採用等、更新時のメンテナンスを考慮し3.4m(H)の天井内スペース及び配管ビットを確保、サスティナビリティに重点をおいた。	Q3 室外環境(敷地内) 工場立地法にもとずいて緑地を設けた。但し建物足元は食品工場であることにより除き、外周部とした。又国道27号線側に巾5.0m緑地帯を設け(G・C・Pにより覆われた)外部環境の向上を図った。
LR1 エネルギー 全館にわたり高効率な機器、器具を採用。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の使用を図った。(電炉鋼材、再生骨材(路盤用))	LR3 敷地外環境 必要な駐車場の確保。(社員用及び材料搬入、商品搬出用) 虫の飛来進入がないように、対応(虫)商品とあわせて屋外照明を抑制した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい